



黒石市「安入^{あんいゆう}の里山」自然共生サイト認定証受領について

～地域の生物多様性を未来へ 企業・地域が連携しネイチャーポジティブを推進～

東北緑化環境保全(株) (仙台市・取締役社長 山形安生) は、(株)アグリーンハート (青森県黒石市・代表取締役佐藤拓郎氏) と共同で申請していた黒石市「安入の里山」の自然共生サイト認定について、6月30日、環境省などより認定が決定され、本日、黒石市スポカレイン黒石において開催された「自然共生サイト認定証授与式」において、認定証を受領した。

「自然共生サイト」とは、民間などの取り組みによって生物多様性の保全が図られている区域を国(環境省など)が公的に認定する制度であり、2023年度から本格的にスタートした。「安入の里山」については、有機農業が生物多様性の保全活動として機能しており、持続可能なネイチャーポジティブの取り組みとして評価されたもの。これまで、企業の緑地や森林などの認定が多い中で、現在耕作されている農地が認定を受けたことは、全国的にも希少なモデルケースとなり得る。また、黒石市は、有機農業を起点とした魅力あるまちづくりを目指す「オーガニックビレッジ宣言」を行っていることから、本サイトは市の宣言と生物多様性が連携しており、市のブランド力向上と環境保全を両立させる先駆的な事例といえる。

今回の申請は、地域の中に当たり前にある自然の価値を見出し、現地で営農に取り組み生態系を守り続けてきた(株)アグリーンハートの努力を広く社会に伝えるとともに、認定を通じて地域の自然環境・伝統・文化の継承と活性化に寄与したいとの思いから実施したもの。申請にあたり、(株)アグリーンハートは現場での営農を、当社は生物調査・モニタリング、および国への申請実務を担当した。

認定証授与式終了後には、当社と(株)アグリーンハートとの共催により、「ここがすごい! 自然共生サイト『安入の里山』」と題したシンポジウムも開催し、産学官民の専門家が同サイトの魅力について講演した。当社からは流域環境研究所長 香川裕之が現地の「生物の多様性」について報告を行った。

現在、世界的に生物多様性の損失を食い止め、自然を回復軌道に乗せる「ネイチャーポジティブ(自然再興)」の実現が急務となっている中、当社は東北電力グループの一員として、“人と自然に優しい環境づくり”に向けて、自然環境の保全・再生に係る事業に取り組んでおり、今回の認定を励みに、地域の皆さまが守り育ててきた自然環境や風景を社会全体の財産として未来へ繋ぐため、モニタリングの強化、保全活動の拡充、地域社会との協働を一層進め、自然と共生する地域づくりに引き続き貢献していきたいと考えている。

以上

○添付資料

- ・[ご参考]自然共生サイト、「安入の里山」について
東北・新潟の自然共生サイト
- ・自然共生サイト認定証授与式の概要
- ・自然共生サイト認定シンポジウムの概要
- ・シンポジウム講演資料

【お問合せ先】

東北緑化環境保全株式会社 総務部 阿部

TEL. 090-3994-2622

Mail : trk_soumu@tohoku-aep.co.jp

〒980-0014 仙台市青葉区本町2-5-1

[ご参考]

※ 自然共生サイトについて

企業の所有地や工場の緑地、里地里山、都市の緑地、社有林など「民間の取組などによって生物多様性の保全が図られている区域」を環境省、農林水産省、国土交通省が認定する制度。2023 度開始され、2026 年 6 月末時点において全国で 610 箇所が認定されている。

背景

2022 年の生物多様性条約第 15 回締約国会議で、2050 年自然共生社会の実現に向けた 2030 年までの取組みとして「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択された。

これを踏まえ、我が国では世界に先駆けて、2023 年に「生物多様性国家戦略 2023-2030」を閣議決定。ミッションとして、2030 年までに生物多様性の損失を止め、反転させる 2030 年ネイチャーポジティブ(自然再興)の実現を掲げている。

この実現の一環として、2030 年までに陸と海の 30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする国際目標「30by30」が掲げられており、その効果的な実現手段として自然共生サイト認定制度が推進されている。

※ 「^{あんこゆう}安入の里山」について

「安入の里山」は、八甲田連峰から続く谷地地形で、岩木川水系十川の上流、高館川に沿って水田や畑、りんご果樹園、集落が分布する里山で、黒石温泉郷県立自然公園に近接している。斜面にはコナラ二次林やスギ人工林がモザイク状に広がっており、多様な生き物の棲み処となる環境が一体となっている。

農業生産法人である(株)アグリーンハートが農地を借り受け、米や大豆の有機栽培に取り組んでおり、環境コンサルタントである東北緑化環境保全(株)が生物多様性の状態を調査した結果、希少種や里山を代表する多様な生物の生息場であることが確認された。

有機栽培の継続的な実施などが生物多様性の維持増進に貢献していることから、このたび、「安入の里山」約 41ha が自然共生サイトに認定された。

青森県では、つがる市のベンセ湿原・青森市のあおもり駅前ビーチに続く認定となる。

東北6県+新潟県自然共生サイト一覧

令和5~8年度第1回(計50件)

青森県(3)

- 1.あおもり駅前ビーチで里海づくり(青森市)
- 2.ベンゼ湿原(つがる市)
- 3.安入の里山(黒石市)

岩手県(7)

- 1.大小迫 つむぎの家(大船渡市)
- 2.久保川イーハトーブ世界(内、知勝院敷地内・自然再生実践地)(一関市)
- 3.積水メディカル岩手工場(八幡平市)
- 4.盛岡セイコー工業 わくわくの森・わくわくトープ(岩手郡雫石町)
- 5.北越コーポレーション外川山林(岩手郡葛巻町)
- 6.岩手県立大学 第一調整池ピオトープ(滝沢市)
- 7.片岸公園(釜石市)

秋田県(3)

- 1.フレスポ御所野「ハチロウトープ」(秋田市)
- 2.能代市常盤財産区の森(能代市)
- 3.健康の森(秋田市)

宮城県(18)

- 1.仙台市水道局青下水源涵養林(仙台市)
- 2.「仙台ふるさとの杜再生プロジェクト」の海岸防災林(仙台市)
- 3.遠藤環境農園(仙台市)
- 4.仙台市沿岸カントリーパーク新浜のピオトープと水田(仙台市)
- 5.仙台八木山里山ピオトープ(仙台市)
- 6.仙台三高 時習の森(仙台市)
- 7.水の森公園の一部(キャンプ場及び周辺施設)(仙台市)
- 8.宮城大学キャンパス(仙台市、大和町)
- 9.伊豆沼農産ふゆみずたんぼ(登米市)
- 10.旧品井沼周辺ため池群(大崎市)
- 11.田上地区の居久根・周辺水田(大崎市)
- 12.荒沢湿原池沼群(加美町)

- 13.南三陸 FSC®認証林（南三陸町）
- 14.新童子下・童子下の田んぼ（南三陸町）
- 15.平地の杜づくりプロジェクト長塩谷集落跡地（石巻市）
- 16.気仙沼大島三作浜自然公園村生物多様性保全地域（気仙沼市）
- 17.宮城大郷ソーラーパークの森（大和町）
18. 南三陸町山藤運輸 童子下水田サイト(南三陸町)

山形県(2)

- 1.三井物産の森/金目山林（小国町）
- 2.JX 金属カッパーくんの森/吉野（南陽市）

福島県(9)

- 1.住友ゴム工業 白河工場（白河市）
- 2.鹿島建設 日影山山林・ボナリ山林（耶麻郡猪苗代町）
- 3.三菱製紙村火社有林（西白川郡西郷村）
- 4.レンゴー株式会社 福島矢吹工場ビオトープ（矢吹町）
- 5.AQURIO_アクリオ（郡山市）
- 6.福島大学金谷川キャンパス（福島市）
- 7.磐梯山慧日寺資料館（耶麻郡磐梯町）
- 8.三井物産の森/田代山林（南会津町）
- 9.ニチアス ふくしまトンボの里（新地町）

新潟県(8)

- 1.朝日城の森（長岡市）
- 2.雪国植物園（西陵の森）（長岡市）
- 3.じゅんさい池（新潟市）
- 4.ふれあいファーム三ヶ村（十日町市）
- 5.キツネ平どんぐりの森(長岡市)
- 6.あてま高原リゾート(あてま森と水辺の教室ポポラ)(十日町市)
- 7.柏崎・夢の森公園(柏崎市)
- 8.十二湯(新潟市)

以上

■黒石市「^{あんじゅう}安入の里山」自然共生サイト認定証授与式の概要

- 開催日時 7月8日(水) 10:00~10:25
- 場 所 スポカルイン黒石 大会議室 (青森県黒石市ぐみの木3丁目65番地)
- 主 催 黒石市・共催 環境省 東北環境局
- 次 第 (1)主催者挨拶 黒石市長 高樋 憲 様
(2)授与者挨拶 環境省東北環境局長 東岡 礼治 様
(3)認定証授与 受領者：株式会社アグリーンハート 代表取締役 佐藤 拓郎 様
東北緑化環境保全株式会社 取締役社長 山形 安生
(4)全体写真撮影
(5)閉 会

■黒石市「^{あんじゅう}安入の里山」自然共生サイト認定シンポジウムの概要

- タイトル ここがすごい！自然共生サイト「安入の里山」
- 開催日時 令和8年7月8日(水) 10:30~11:15
- 会 場 黒石市 スポカルイン黒石 (自然共生サイト認定証授与式 会場)
- 主 催 東北緑化環境保全株式会社、株式会社アグリーンハート
- 参 加 者 産学官民の関係者、一般市民、報道関係者など
- 開催趣旨 自然共生サイト「安入の里山」は、農業という人の営みが長年にわたり豊かな生態系を守り育んできた地域資源であり、自然共生社会の理念を体現する場として高く評価されている。今回の認定証受領を契機に、同サイトの価値を広く共有し、地域の生物多様性・自然環境・文化・営農の魅力を次世代へ継承するため、産学官民の専門家による講演・報告を通じて理解を深めることを目的として開催。
- 講演内容 (1)自然共生サイト 制度の概要について
環境省東北環境局 自然環境調整専門官 相澤 あゆみ 様
(2)「安入の里山」におけるアグリーンハートの取組み
株式会社アグリーンハート 代表取締役 佐藤 拓郎 様
(3)「安入の里山」の生物多様性について
東北緑化環境保全株式会社 流域環境研究所長 香川 裕之
(4)里山が自然共生サイトになることの意義
弘前大学 理事・副学長 東 信行 様

以上